

2023（令和5）年さけます来遊状況（第1報：9/30現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の年齢別来遊数では、4年魚（2019年級）は前年、平年ともに下回り、5年魚（2018年級）は前年を上回っているが、平年の31%。
- 北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では4年魚は平年の28%、5年魚は前年を上回っているが、1994（平成6）年以降で2番目に少ない。
- 北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では4年魚は前年を下回るが、平年の97%、5年魚は前年を上回っているが、平年の53%。
- 北海道のサケの平均重量は3.11kgで前年を上回り、1994（平成6）年以降で3番目に小さい。

*1：平年とは、1994（平成6）～2022（令和4）年の平均値

・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、9月30日現在における年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2019年級）が全体の62%と最も多く、次に5年魚（2018年級）が34%を占めました。4年魚は前年同期の56%と前年を下回っていますが、5年魚は前年同期の127%と上回っています（図1）。平年同期との比較では、4年魚は64%と下回っており、1994（平成6）年以降で6番目に少ない状況です。5年魚は31%と下回っており、1994（平成6）年以降で4番目に少ない状況です。

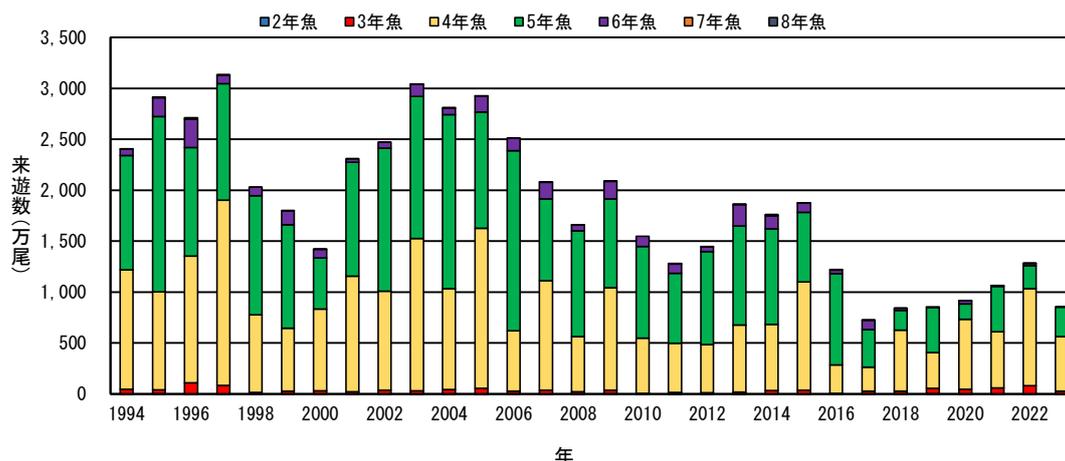


図1. 9月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の72%の水準となっています。また、5年魚である2018年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の75%の水準となっています（図2）。

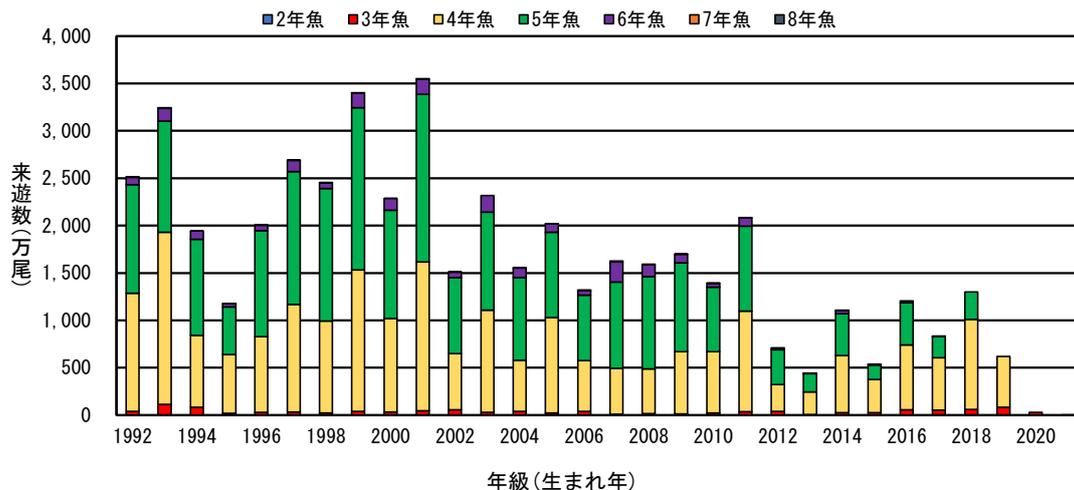


図2. 9月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）.

地域別にみると、北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚の来遊数は前年同期の77%、平年同期の28%となっており、1994（平成6）年以降で5番目に少ない状況です。5年魚の来遊数は前年同期の129%、平年同期の7%となっており、前年同期は上回っていますが、1994（平成6）年以降で2番目に少ない値となっています（図3）。

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚の来遊数は前年同期の52%、平年同期の97%となっており、1994（平成6）年以降で中位の水準となっています。5年魚は前年同期の127%、平年同期の53%となっており、1994（平成6）年以降で4番目に少ない値となっています（図4）。

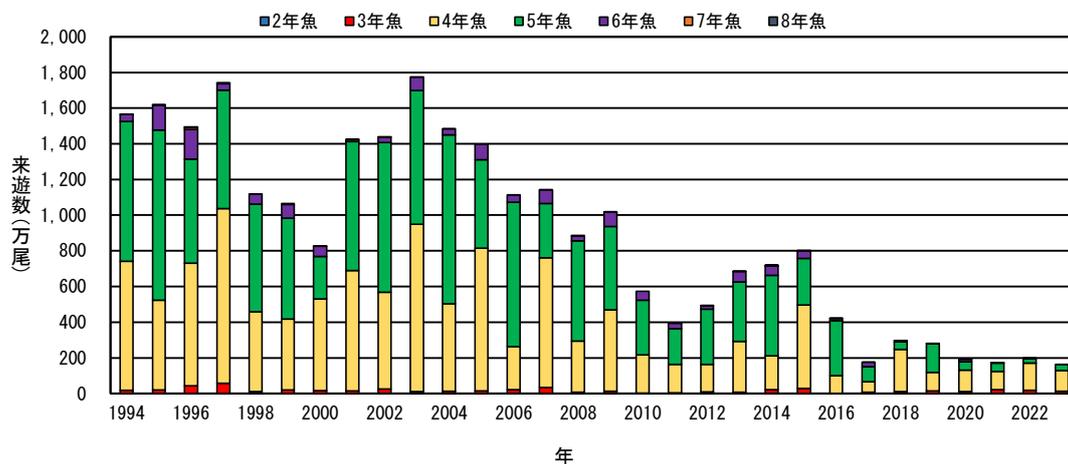


図3. 9月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

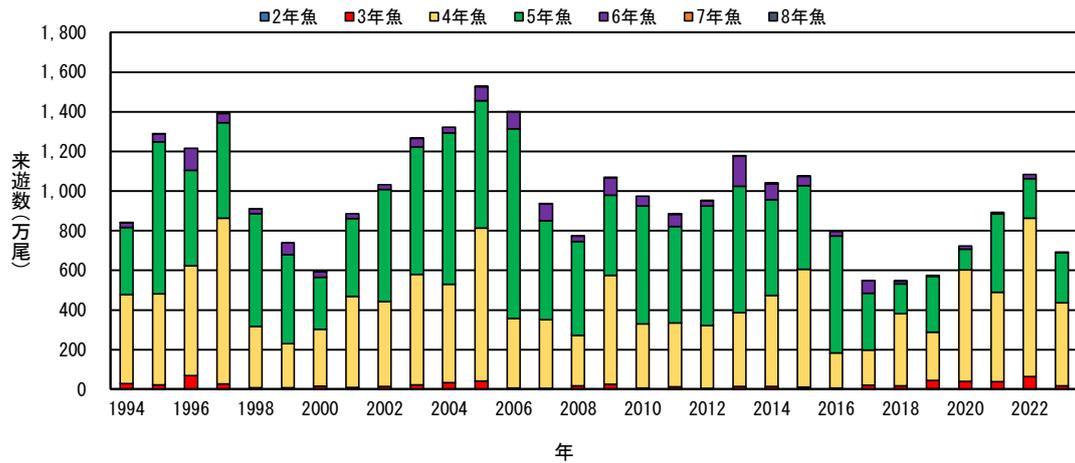


図4. 9月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における9月30日現在のサケ1尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は3.11kgであり、前年同期の平均重量2.87kgを上回りましたが、1994（平成6）年以降で3番目に小さい値となっています（図5）。

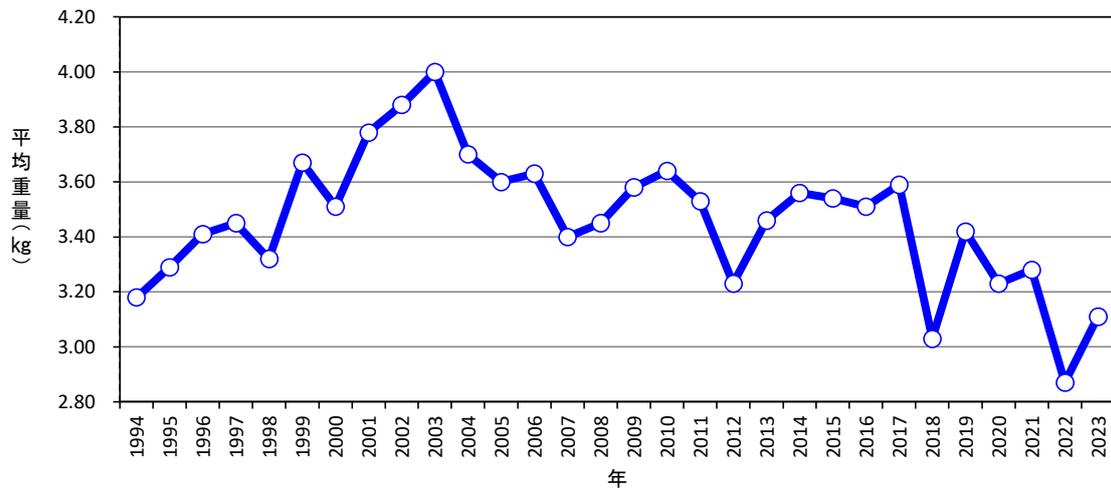


図5. 9月30日現在のサケ平均重量（北海道）.